

なほ

3月号
vol. 121

巻頭特集

いくさの軌憶

—むこうとここ—

「傘の柄にそっくり」
北津守2丁目付近にて撮影

僕たちはずいぶん長いあいだ空気のような平和の恩恵に与ってきた。だから、それが無い状態をうまく想像できなくなっている。71年前、僕たちの国は他国と戦争をしていた。そしていまも世界中で戦争に苦しむ人々がいる。紛れもない事実であることは知っている。でも自分事にはならない。この国が彼の地で戦争に巻き込まれても、ピンとこないかもしれない。戦争ってなんだ？ 平和ってなんだ？ そんなモヤモヤを解きほぐそうと、いまに続く記憶の軌跡を辿って、むこうとこの「軌憶」を考えてみたい。

(いくさプロジェクト:田岡・飯島・西田・若松・佐々木)



1945年3月14日の空襲で廃墟となった高津町界隈からミナミの繁華街方面を眺める (画像提供: 毎日新聞社)

巻頭特集

いくさの軌憶

—むこうとこ—

大阪市内編 その2 空襲を生き抜いた少年の「軌憶」 〜日本橋(旧高津)界隈〜



廃墟の大阪

千日前の大通りに面し、暖簾などを飾る店舗がある。昨年のある日文楽公演の帰りに立寄った折、そこで出会った店主が北浦皓式さんである。北浦さんの事務所は中央区日本橋にある国

立文楽劇場から西へわずかな歩幅のところにある。祖父の代から「暖簾」「幟」「袴纏」などを染める(株)北浦染工場の3代目オーナーだ。1935(昭和10)年10月生まれで81才になる。北浦さんは、文楽座公演で販売される解説本の巻頭に掲載される一枚番付——出演者名や演

目を書かれたプログラム——を2012(平成24)年まで勘亭流で書いてきた。歌舞伎や相撲の番付表などでも知られる勘亭流とは、芝居小屋が客で埋め尽くされるようにと、縁起を込めて作られた肉太の文字書体(タイプフェイス)のことで、北浦さんは勘亭流を書くことで知られた文字職人でもある。北浦事務所のほぼ正面南にある黒門市場の近くに実家があり、もともとはここで染工場を営んでいた。45(昭和20)年から始まる米軍の大坂空襲の端緒となるのが、3月14日の難波や戎橋、高津(現日本橋)、千日前周辺の焼夷弾攻撃だった。

焼夷弾とは油脂を内包した砲弾のこと。日本家屋の多くが木造建築であるとした米空軍が、この爆弾を搭載した大編隊で日本の主要都市をめぐって襲い、高熱によって焼きつくしたのである。大阪市内全域はほぼ廃墟となるが、日本ではまだまだ少

なかつた鉄筋コンクリートのビルは焼け残って無残な姿を留めていた。北浦さんが疎開先から帰ってきた状況を「この界隈から、東西南北が遥かに見渡せ、とくに高島屋、松坂屋、大劇、教会などのコンクリートの建物だけが残り、そのほかは焼き尽くしてなんにもなかつた。黒門市場は完全に壊滅していた」と話している。

職人のまち

共同体のまち

戦前、日本橋は高津と呼ばれ、黒門界隈は職人集団の町として賑わった。北浦染工場の受注先は様々な職人や博徒、消防団などで、絆纏や暖簾を必要とした時代で、一点主義の手作り製品の注文を中心に、活気を呈していたという。「小屋や食事処もたくさんあったが、家族で芝居や映画など行くことは少なく、今のように外食に行くような習

慣もなかった」という。また職人たちも、日曜日が休みでない人たちも多く、また定まった仕事も規則的であったわけでもなかったもので、くらし自体は質素なものであった。

大工・左官・下駄屋・芸妓・市場など、それぞれの職種にかかわる職人たちが住み、北浦染工場に働く染物職人たちの生活拠点でもあったのだろう。今のサラリーマンといわれる職種は少なかったという。太平洋戦争の始まりは41(昭和16)年で、北浦さんは小学1年生の6才だった。「黒門界限の人たちの生活は、経済的には比較的豊かな場所やっ



北浦染工場のオフィス

た」と話す。

職人が集まる場とは、大工仕事を例にとれば、棟梁、屋根瓦、左官、カンナ掛け、鍛冶など様々な職人がその建築物を建て、あるいは修理をするために集まってくる。そんな色々の職種が積み内包されていた。異業種の職人集団がそれぞれのコミュニティを作って暮らしていたということだろう。そこには相互扶助や協力があり、暮らしを保持するコミュニティがあったといえる。

だから黒門は「戦時体制とはいえ、それほど食うに困るほどの生活苦はなかったし、実際にいっほど人々に緊迫感はなかったのではないかと」、当時小学生だった北浦さんの印象だが、「しかし大空襲でびっくりりし、初めて自分たちの置かれている立場を理解したんやと思う」ともい

余談だが、戦後に豊田四郎が監督した『夫婦善哉』や、川島雄三の『わが町』『貸問あり』のロケ

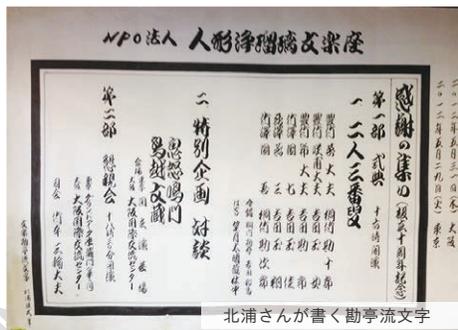
いたので、北浦さんが中学生の頃の49(昭和24)年、現在の日本橋2丁目に北浦染工場を再建したという。また土地の権利問題が発生し、99(平成11)年に、千日前筋にある事務所に移転し今に至っている。

闇市

「食糧危機とは言われたが、われわれに大きな飢えはなかった。ただ日本経済が配給制の中、肉などの食料はなく、米なども大きく制限があった。野菜類は自家栽培をしてしきのぎ、またニワトリなどを飼って絞め、玉子を

収穫して暮らしていた人たちも多かったように思う。大阪では闇市が数多くできて、闇で商品を売り買いする取引がおこなわれた。金銭が思うように流通しない都市と農村などでは物々交換などが行われ、例えば都市からは衣類や雑貨が持ち出され、地方の食料などと交換するといようなことも日常的で、それらも闇取引として法に抵触し、警察官に没収されることも再々あった」。

とくに都市生活者の食料事情に関しては、主食である米や塩・砂糖類、衣類などが買えず、食料の流通が不自由で、一方、地方や



北浦さんが書く勸学亭流文字

地は黒門や夕陽丘など高津を中心として描いている。その頃の高津界限の雰囲気は伝わる映画として、貴重な記録にもなっている。

疎開ぐらし

敗戦色が濃くなり、空襲が現実的になってきたとき、国は子どもたちを大阪から地方都市などへ集団疎開させた。小学3年生だった北浦さんが通う高津小は、滋賀県の豊郷町内の豊郷小に疎開した。その後、親戚のいる神戸市の住吉、そして大阪市内長居にも疎開が続いた。この

村落などでは衣料品や雑貨などが不足したので、相互を補完するために物々交換が成立した。しかし配給統制を盾に、それらは違法な取引、つまり闇取引として警察が取り締まったのである。

北浦さんが実例を話す。「染物屋は暖簾や袴纏などをつくるために、行政から布を配給される。しかし当時の状況は、受注すらないし、そんなもん作る余裕のない時代やった。だから布が使われずに堆積する」。そこで北浦さんたちは、農村などで衣料や布製品が不足し、とくに赤ちゃんのおむつなどが不足しているの目をつけ、おむつ用の布を持っていき、食料と交換してもらう。「つまり物々交換やね。最低限度、生きていかんとあかんから、様々なことをやってきた。だから、親戚を田舎に持っている」と便利な時代だったと思う。田舎は戦争被害が比較的少なかったので田舎にあこがれたね」。

需要と供給の見事な知恵だが、

両家ともに焼夷弾攻撃が激しく、行くところ疎開先は完全に燃やされる。

「住吉は港湾部なので軍需工場、造船所が集積していて、その周辺は爆撃を受けた。長居は当時住宅地も少なく、田舎に近い場所であったにもかかわらず、米軍機が目的地に行くための「行きがけの駄賃」なのかどうか焼夷弾を落とす行きよった。また長居で疎開中に攻撃機が目前にまで迫り、機銃掃射を受けた。今から考えれば、まだ子どもでもあり、操縦士が遊びや脅しを繰り返して楽しんでいたのかもしれないと思う。本気で撃たれていたなら、今の私はこの世にいない。いずれにしても、自分の疎開場所が常に空爆の対象になり、何度も恐ろしい体験をさせられた。その結果、一族全てが焼け出されて裸同然となってしまった」。

戦争が終わり、黒門に帰り見た風景はすでに上述した。自分たちの住まいが丸焼けになって

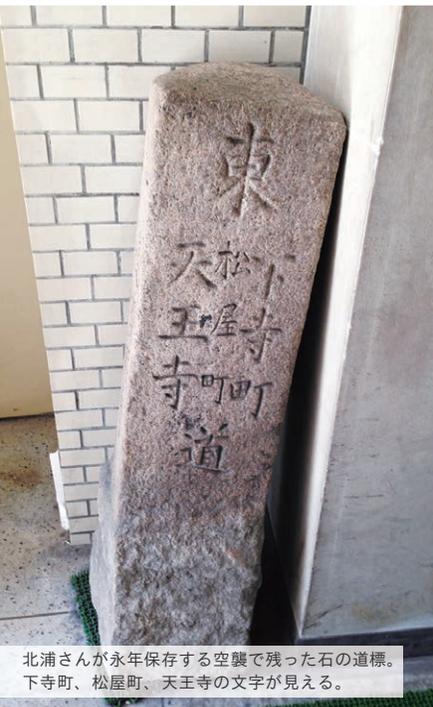


北浦夫妻

しかし筆者である私の父が「折角農家まで行き苦労して仕入れてきた米などが、大阪に着いたとたん警官たちに全部没収されたことが何度もあった。農家の人間は足もとを見るし、警官の監視を憎んだ」と生前語っていた。北浦さんも「それが日常茶飯事の時代やった。混乱した時代やからこそ凶太く生きんと死んでしまふ」そんな悲喜劇を笑った。

それでも当時、多くの国民、大阪市民は不覚にも戦争に突き進み、ついには原爆という代償までを引き受けざるをえなかった。

文責：佐々木敏明



北浦さんが永年保存する空襲で残った石の道標。下寺町、松屋町、天王寺の文字が見える。

きんこん がこん

ver.1.1

20年の実績に脱帽やで!

志塾フリースクール

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない!小中高のほかにも地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

21時間目: 志塾フリースクール



午前中の学習指導

全国に広がる志塾フリースクール

フリースクールって知ってますか? 学校が苦手な子どもが通う教育的な施設・居場所、メディアでもよく話題になっています。「志塾」の教室は、僕の仕事の近くにあるのですが、てっきり学習塾だと思いついていました。今回あらためて教室に伺い、金先生にいろいろ教えていただきました。

志塾フリースクールは松之宮小学校出身の代表が1997年に西成で開校したのが始まりです。現在は名古屋、島根、岡山、鳥取など全国各地にも教室があります。また、遠方のために通学困難な子どもや家族と離れて自立したい子どもには学生寮併設の教室が用意されています。西成校には地元だけでなく住之江区や堺市などから小学5年生〜19歳までの約20名が通っています。

一日の過ごし方

午前10時からの2時間は習熟度に合わせた学習指導します。時間どおりに登校できない子どもには個別に対応します。昼食は

「全員で揃って食べる」のがルールですが、弁当は家から持ってきたり近所の店舗で購入したりとそれぞれです。伺った当日は調理実習の日で、カレーとポトフを調理していました。

午後は体験活動の時間です。近くの公園に遊びに行ったり、室内でTVゲームやボードゲームをしたりして過ごします。カリキュラムは夕方17時までですが、19時まで勉強することもできます。また、男の子のあいだでは野球が流行っていて、スタッフチーム



野球でスタッフチームと対戦

と試合することもあります。フリースクールの野球大会に出場したこともあるそうです。

年中行事も充実

夏の合宿には毎年、全国のスクールから親元を離れて約40人が集まり交流します。昨年は7時間かけて島根まで行きました。秋には大阪府内の教室が合同で文化祭を開催しました。西成区民センターのホールを貸し切つて、模擬店(10店舗)やステージ展示など一般の人でも参加できるようにしました。昨年からは運動会も開催するようになり、運動場を使う機会が少ない子どもたちは大喜びだったそうです。

卒業が一番の目標

「必ず卒業させる」ことを目標にされているのが志塾の大きな特徴です。就学のタイミングで学校に復帰できるように学習指導したり、複数の通信制高校と提携したりして大学進学にも対応しています。また、原籍校(本来通うべき学校)との連携にも力を入れています。スタッフが必ず訪問して定期的に学習や活動を報告し、フリースクール



2015年度の卒業式

への出席を原籍校での出席に認定してもらうように働きかけています。最近就職支援にも力をいれ、企業や職業紹介所と連携した就労体験を実施しているそうです。

志塾では現在、子どもと一緒に遊んだり学習や体験活動をサポートできるボランティアもボランティアをきっかけに志塾に就職したそうですよ。

○お問い合わせ先
NPO法人 志塾フリースクールレヴィスタ教室
場所: 大阪市西成区鶴見橋2の10の20
電話: 06-4392-4109
ホームページ: <http://web1.kcn.jp/shijuku/>
入会金: 100000円、保険代: 年間6500円、月会費: 290000円

レポート: 沖田一志
寺嶋公典

[寺嶋公典] ここ数回、どんなことをしてるのかな?と気になってたところに取材に行った。取り組み内容がわかっただけでなく、道で会った時にあいさつをし合う仲になれたことがよかった。

[沖田一志] 花粉の季節です。この時期になると毎年欠かさず花粉症対策の薬を飲み続けています。最近気づいたのですが、以前に比べると明らかに症状が軽くなりました。薬が進化したってこと?



(左上) 就学準備 (左下) スタッフ (右) 絵画

一方で、過去のトラブルなどで対人関係に苦
手意識を持ってしまい、ひきこもりになった方
たちにも利用いただけるよう、ありのままの自
分で安心できる場を提供できるように努めて
います。一言で「ひきこもり」といっても、精
神疾患を伴う場合や人間関係が不安で悩む方
など、その症状やステージはバラバラです。で

ありのままの自分で過ごせる場

「クリエイバ」とは聞き慣れない言葉ですが、
私たちは「Create Value (価値を
創造する)」という意味を込めています。その
根底には、発達障がい起因する違いや特性を
ネガティブにとらえるのではなく、「発達障がい
のある人たちの多様性や強みを生かす社会
の実現」という新たな価値を創造していきたい
という想いがあります。

当事者のサポートをはじめ、その保護者や家
族などの身近な人々の支援と、ご近所や学校
職場における理解と協力の促進といった地域
社会づくりを柱にすすめています。

「可能性は無量大
大」

クリエイバは就学前児童から成人までと幅広
い年齢層の方にご利用いただいています。毎
日、2〜5歳までの子どもたちの「おはよう」
というかわいい声がセンターに響き渡ります。
子どもたちの無限の可能性に大人たちが気づ



ヒューマンインクルーシブセンタークリエイバ
〒557-0025 大阪市西成区長橋 3-1-17
TEL 06-6567-7115 FAX 06-6567-7116

きる限りオーダーメイドで、相談、居場所の提
供、自宅への訪問などを通して、将来に向けた
一歩を踏み出せるようサポートしています。
最後に、まだまだ開所して1年、未熟なこと
もありますが、地域のみなさんと協働して多く
の方々にご利用いただけるように成長してい
きます。お子さんの成長などで気になることが
ありましたら、ぜひご相談ください。今後とも
よろしくお願いたします。

文責：岡田 光司

『なび』をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。
多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.35 ヒューマンインクルーシブセンター クリエイバ

社会福祉法人
ヒューマンライツ福祉協会



社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会が、ヒューマンインクルーシブセンタークリエイバを開所して1年を迎えようとして
います。発達障がいのある子どもや成人へのサービス提供が中心のクリエイバですが、まだまだ「クリエイバって？」という方は
多いのではないのでしょうか。そこで、今回はセンター長の岡田さんにクリエイバの活動や目指すものを紹介いただきました。

自分らしく生きられる地域を



(左) ベビママ (右上) 陶芸 (右下) リハビリ



[谷口 朋] 先日はじめて VR を体験しました。あまりに楽しかったので PlayStation VR が欲しくなりましたが、たぶん買ってしまおうと仕事に手がつかなくなりそうなので自重中です。



[岡田 秀朋] 地域課題は他人事ではなく「我が事」。福祉は縦割りではなく「丸ごと」。地域共生社会の新コンセプトのもと、20年をめどに福祉相談窓口が一元化される。機能するかは現場での顔の見える関係なんだから。



今月の花:サイネリア

花言葉:「いつも快活」
「喜び」

正式名称はシネリアですが、名前が「死」を連想させるためサイネリアの名で売られています。冬から春にかけて明るく華やかに咲く花です。



先日近所のドヤが火事になりました。帰宅してテレビをつけたら、ニュースで店が映っていると思い、店の2階に住む人に連絡しました。店とドヤの間に公園があって飛び火もなく安心しました。ただ、花屋で働いていた人が、そこに住んでいたのですが、まだ連絡がとれていません。今でも心配しています。焼け跡はひどいです。泥棒とちがって、火事は何もかも、無くなるので・・・
(なんばひとみ)

hidarimaki



同窓会などはあまり縁がないけれど、数十年ぶりの友人との偶然の出会いはいたいへん幸運だった。昨年はそんな邂逅が2つあり、仕事の協力者になってもう約束をした。

退位1
すめらぎのまずは命が初仕事

退位2
象徴が深い播らぐ冬潮目

退位3
まやかかしに今上あきれる冬狂言

退位4
天皇に下駄をあずける祖国の冬

冬ころも着せたペットに曳かれおり

シリウスの月にもまさる光輝訝え

い湯かげん

地域自治区と総合区で大阪市が分権都市に変わる

ようやく、大阪市を残したまま都市内分権を推進する「総合区」の骨格と日程が明らかになってきた。現行24行政区を単位に「地域自治区」制度を導入、「意見具申権」を付与するとともに、総合区役所とならない区役所を「支所」として存置する。行政区単位は「一般市並み(人口30万人程度)」の事務を執行する8区に総合区とする「総合区」を設置、総合区長に「予算提案権」と様々な行政サービス(子育て施策、道路・公園の維持管理等)の執行権を付与するとともに、議会の「総合区常任委員会」と住民参加の「区政会議」も設置する。

日程的には、3月に総合区「区

割り(8区)案が公表され、夏には総合区の「制度案」が示される。遅くとも2018年2月には総合区設置の関連議案が議会に提案される予定だが、公明党は「遅すぎる」と注文を付けている。ともあれ、可決されると、その一年後(2019年4月)の市議・府議選挙は、総合区割りでの初めての選挙となる。

ただ、吉村市長は、「総合区に特別区を便乗させたい」ようで、4月には「法定協議会」設置の可否を議会に問うようだ。さらに、来年2月に総合区関連議案を採決しても、秋に予定している特別区の住民投票まで凍結しておく腹づもりのようだ。維新を慮つ

ての折衷案なんだろうが、吉村市長のかじ取りは複雑系だ。しかし、総合区への共感が広がることで、民意に従って、最後は住民投票を思いとどまってくれると期待する。

また、合区の議論は現時点を起点とするなら拙速感も拭えないが、都構想議論を起点と考えるなら、それなりに時間をかけてきたとも言える。「合区なき24総合区」案の自民党も、これからの議会での議論を経て、「総合区を実現」で収斂してくれるものと期待する。

裏話みたいな噂話だが、2019年4月の市議・府議選について、公明党だけが総合区区割り選挙の準備を進め、他党は現行24区選挙を想定しているようだ。「合区なき総合区」案の自民党や、「現状維持」の共産党は当然なのかもしれないが、不思議なのは維新で、特別区の住民投票で「空白」ができるので、総合区区割り選挙に「間に合わない」との予測だそう。維新らしか

大阪ナイス代表取締役
富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「い湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

たのむ 3くふうたま

6ヶ月

毎月一度は実家で家族と集まることに決めた。離れているだけで特別感が出るので、手ぶらでただお好み焼きを食べに帰る。日常が特別になって、ついでに安心も添えてみる。(安田拓也)

であい

このまちにはいろんな出会いがある。内気で一人が好きだけど、すごく映画が好きひと。せわしく落ち着かないけど、趣味が多彩で、心の温かいひと。かなり短気だけど、人情深くお年寄りに優しいひと。あまり前向きになれないけど、繊細で笑顔の素敵ひと。自分勝手だけど、もの凄く頑張り屋ひと。手先が不器用で遠慮がちだけど、母思いの優しいひと。結構な病気持ちだけど、ファッションブルでユーモラスなひと。少し心の揺れる時もあるけど、母思いでとても気持ちの若いひと。頑固で全然話しを聞いてくれないけど、どうも憎めないひと。一人で凄く落ち込むかと思うと、たまに歌いだす多彩で陽気なひと。無口だけど、手先が器用で芸術的で情熱的なひと。最年長で頑固さも人一倍、でも誰よりピンピンしてるひと。

出会いの数だけ凸凹があるけれど、時間が経って丸くなり、たまのとんがりや隙間も、一緒に過ごした時間がそっと受け止め、埋めてくれる。

[若松司] 鶏口牛後。去年から今年にかけてがんばってみたいことがあった。残念ながら実現できなかったけど、そのおかげでわかったこともあった。新味のない見だけ主体的に関わったことの成果と捉えたい。

[西田吉志] インフルエンザが流行してきましたね。29歳まで一度もかかったことがなかったが、予防接種をするようになってから毎年かかりました。それで予防接種をやめるとかからなくなりました。これ本当。

にっしゅ 飯ユラ

メシ

12軒目

『和・洋定食お食事処
いまみや亭』



国道43号線中開交差点から東に300m、ニトリの筋向かいのビルの一階にある。周辺には中小の工場が立ち並ぶが、看板をみなければ通り過ぎる。店内はカウンター、テーブルと20人も入るともういっぱい、こじんまりした店だ。開店は昨年11月14日、まだオープンして四カ月余り、そのホカホカ感が醸し出ているお食事処。

店主の富田武志さんによると“この周辺では、フライものそしてボリューム感のある定食が好まれる”。トンカツ、エビフライ、ハンバーグ、黄そばとフライものが中心のメニューとなっている。では「本日のおすすめ定食を」。トンカツ定食に、黄そばがプラスされたボリューム感たっぷりの定食が650円。“周辺の洋食屋さんではみそ汁がついているが、うちでは黄そば。味噌汁ではあっさりしすぎている”。この黄そば、「店のおすすめ」であり単品でたのみと240円、本日のおすすめ定食はお得感が充満している。

おすすめ定食、トンカツもうまいが、やはり黄そばのほうに箸はずすむ、そば以上に「出汁」がうまい。“出汁にいろいろと素材をいれると味がまちまちなる。白味噌をベースに、コンソメやブイヨンなどを加味し

ミシュランならぬ“飯ユラ”。匿名でなく飯島(だから飯(メシ)ユラ)が「店主がおもしろい」、「店の客が楽しい」、「料理が、味がおいしい」の3つの「い」を基準に、西成区内の飲食店などを紹介します。

ている。お客さんは好みによって、七味や胡椒を振りかけています”。あっさりしているが味にコクが、おこゆきがある。麺にもうまく絡んでいる。この出汁に加える素材を変えてスープやカレーそばの出汁にもなっている。出汁がしっかりしているから、応用もきくのだろう。

店は現在、昼間が営業時間帯である。“まだ、慣れていないが、3月ごろから、夜も食事をメインとした居酒屋をやっていきたい”と夜の展開も視野に入れている。店は富田さんが仕込みや味付けを行い、奥さんや手伝いの人が揚げたり、調理、接客をしている。富田さんは車の修理工場も経営しており、いわば二束のわらじ。ゆくゆくは奥さんに店を任せっていく考えで、地元のお客さんを見据えながら、定食屋から食事処へとハイスピードで駆け上っている。

和・洋定食お食事処 いまみや亭

場所: 西成区中開1-2-12 電話: 06-6562-2227
営業時間: 10:30~15:00、(予定) 17:00~21:00
定休日: 日曜日

あとがき

亡き父が語っていた、「戦争、人が人を殺す、あってはならないことが、お国のために、家族を守るために、というスローガンで正当化される。軍靴の音はひそかに、じわじわと、忍び寄り、気づいた時には戦場…。忘却してはいけない、戦争があったこと、そこに至ったことを。今年父の十三回忌。「いくさの記憶一むこうとこ一」で、父の「あってはならない」ことがふと頭を過った。記憶と記録、伝承が大切であることが…。(飯島)